

Vol. **43**

2013.10
October



ケアマネ・ポート

KYOTO CARE MANE PORT

Contents

- 2 平成25年度 京都府介護支援専門員会 第12回総会報告
- 3 平成25年度 ブロック委員総会
- 4 日本ケアマネジメント学会 第12回 研究大会報告
- 5 特別企画 一般社団法人 日本介護支援専門員協会常任理事 吉良厚子氏に聞く
- 6 訪問リハビリ・看護ステーションとの連携について
～訪問看護、訪問リハビリの力を活かしていますか？～
- 7 事務局からのお知らせ
- 8 編集後記

平成25年度

京都府介護支援専門員会 第12回総会報告

平成25年6月29日(土) 午後3時30分からハートピア京都にて第12回社団法人京都府介護支援専門員会総会が開催されました。

冒頭、上原会長の挨拶で「現在ケアマネジャーを取り巻く環境が変化しつつあります。介護予防者の給付削減や利用者一部負担、施設ケアマネジャーの不要論等が話し合われている、とても残念なことです。京都府介護支援専門員会を今後も魅力のある会にしていくために目の前にあるメリットだけでなく職能団体としての意義をしっかり守り、様々な現場の提言ができるようにしていくことが必要です。執行部だけでなく一人一人のケアマネジャーの力が大切になります。ケアマネジャーの皆様が当会に何をしてくれているのではなく個々のケアマネジャーがどのように当会を利用していかをということを周知していただきたい」との挨拶がありました。

議 事

- 第1号議案 社団法人京都府介護支援専門員会
平成24年度事業報告(案)について
- 第2号議案 社団法人京都府介護支援専門員会
平成24年度収支決算報告(案)について
- 以上のすべての議決が賛成多数で可決されました。

以上の内容で閉会となりました。ご多忙の中、ご参加いただきました皆様ありがとうございました。

(編集委員 西村 篤)



質疑応答については、

ホームページ (<http://kyotocm.jp/>)



『会員ページコンテンツ』



『会員へのお知らせ』をご覧ください。



社団法人 京都府介護支援専門員会
Corporation Kyoto Caremanager Association

HOME

事業内容

入会のご案内

※どなた様でもご覧いただけます。※
～是非ご覧ください～

府民のみなさまへ

介護支援専門員のみなさまへ

会員ページコンテンツ

パスワードをお忘れの方は
こちらをご覧ください

氏名・住所・事業所等の
異動届はこちら

会員へのお知らせ

介護サービスQ&A

メールマガジンバックナンバー

相談受付

理事会・部会・委員会報告

各種様式

お知らせ 最新情報

- 2013/08/30
【メールマガジン】「027号」
- 2013/08/29
【研修】平成25年度京都市ケア
- 2013/08/19
【イベント】第11回日本通所ケ
- 2013/08/19
【イベント】SKYふれあいフ
- 2013/08/19
【宇治市】成年後見制度の申立
- 2013/08/19
【研修】平成25年度かかりつけ
- 2013/07/26
【メールマガジン】「026号」
- 2013/07/26
【研修】平成25年度第四回介護
II) (O.P.T.Zコース) 申込受付
- 2013/07/25
【厚労省通知】介護保険最新情
- 2013/07/22
【厚労省通知】介護保険最新情

平成25年度 ブロック委員総会

平成25年6月29日(土)、午後1時30分よりハートピア京都（4階会議室）にて、平成25年度ブロック委員総会が行われました。府内各地より多くのブロック委員の方々にご参加頂く中で、今後のブロック活動のあり方についての検討が行われました。

冒頭、上原会長の後、山下常任理事よりブロック活動の現状と、今後のブロックのあり方についての素案が示されました。

ブロック活動の現状においては、主として研修会の開催を中心に行われている各ブロックの活動について、担い手であるブロック委員のなり手が不足している地域もある点。またケアマネの就労形態の多様化（施設、包括支援センター、地域密着等）や各種団体が開催する研修機会の増加により、ブロック活動がスタートした当初とはその意味合いが変わってきているのではないかとの指摘がありました。



続いて、会の体制強化に向けた今後のブロックの方向性の素案として、

- ①現在の府内8ブロックでの地域区分を、北部(丹後・中丹・中部)、京都市北、京都市南、南部(乙訓・相楽・南山城)の4ブロック体制へ移行する。
- ②各行政区単位のケアマネ連絡会との連携を図り、当会との連絡員となる会員を置く。連絡員は行政区毎の課題の吸い上げを行なうとともに、日本協会、京都府介護支援専門員会の動向等を伝え、双方向の情報伝達を行う。また、ブロック毎の研修を取り止め、ケアマネ連絡会毎の研修活動について、要望や内容に応じて当会が財政的に支援していく。

との案が示されました。

これに対し、ブロックの委員の方からは日本協会、行政区毎のケアマネ連絡会との連携を深める方向性について理解が示される一方、「会員がメリットを感じられず、退会者が出るのではないか」といった危惧や「都市部に比べ研修機会には地域格差がある」、「ブロック主催の研修の継続を望んでいる」、「4ブロック体制案では地域割が広範であり、ブロック内での連携を図って行くことが困難ではないか」等の意見が交わされました。

現行体制から大きな変化を伴う変更案である為、今回のブロック委員総会のみでの結論は得られず、委員の方より寄せられた意見、要望を基に、更にブロックのあり方についての検討を進めていく事、会として今後の方向性についての周知を図っていく旨の総括を持って閉会となりました。

(編集委員会担当理事 秋風伯尚)

日本ケアマネジメント学会 第12回 研究大会報告

表記大会が平成25年6月5日～6日の2日間、大阪国際会議場・リーガロイヤルNCBにて開催されました。今回は第28回日本老年学会総会との合同開催になります。近畿圏での開催と言うこともあり、当会もミニシンポジウムⅠを担当しました。医療連携をテーマに花園大学の福富昌城先生を座長に、特定非営利活動法人奈良県介護支援専門員協会の竹村恵史会長をコメンテーターにお招きし、京都府独自の「在宅療養あんしん病院登録システム」を軸とした連携の実際を、システムを展開する京都府地域包括ケア推進機構の立場から、当会常任理事でもある井上基氏より、あんしん病院の立場から、公益社団法人京都保健会京都民医連中央病院地域連携課の甲田由美子氏より、現場のケアマネジャーの立場から、認定ケアマネジャーでもある社会福祉法人京都福祉サービス協会小川事務所の高木はるみ氏よりそれぞれ発表がありました。

京都式地域包括ケア構築に向けた様々なプロジェクトの紹介と、中でもその屋台骨である「在宅療養あんしん病院登録システム」の紹介に始まり、システムの展開を受け、退院する患者さん毎に関係専門機関への連携に関する必要性の度合いを数値化し、スクリーニングを行うことで、在宅療養へのスムーズな移行やケアマネジャーを含む在宅チームへの密な連携を図る病院としての取り組み、また、システム登録を通じたケアマネジャーと主



治医の連携強化や、システム活用による早期退院の実現事例の紹介などがありました。

制度化されたシステムをいかに活用するかは、現場を預かるケアマネジャー毎の判断にもよりますし、活用によって多職種連携が強化されるか否かはそれぞれの力量に依るところは大きいと思います。そういった観点から、今回の発表は参考にすべき貴重なものでしたが、他県の方たちが多数参加されたフロアの興味は斬新なシステム自体に集中し、質疑がこの点に終始してしまい貴重な実践からスポットが外れたのは少し残念なところでした。

他にも、「介護支援専門員（ケアマネジャー）の資質向上と今後のあり方に関する検討会」中間報告についての当会の調査研究事業の報告を、当会の吉良厚子事務局長がポスター発表し、多くの参加者に対し課題の投げかけになったことを併せてご報告します。

大会会場では、多くの会員さんに出会いました。このような研究大会への参加などを通しそれぞれの知見の拡大による能力向上に加え、ネットワークの拡大によるケアマネジャーの資質向上の裾野の広がりも実感できる熱い2日間でした。

（常任理事 松本善則）



特別企画

一般社団法人 日本介護支援専門員協会常任理事
吉良厚子氏に聞く

多くの皆さんは、JCMAメールマガジンなどで既にご存じのことと存じますが、平成25年6月16日、鉄鋼会館（東京）にて、一般社団法人 日本介護支援専門員協会（以下、日本協会） 第5回社員総会が開催され、鷺見よしみ氏（前日本協会常任理事）が新会長、当会の事務局長である吉良厚子氏が常任理事として選出されました。今回は特別企画として吉良厚子日本協会常任理事に中央での情勢や今後の展望などをお聞きしたいと思います。

松本：今回、全国選出理事選挙へ立候補をしようと思ったきっかけは何だったのでしょうか？

吉良：2009（平成21）年にも立候補をし、常任理事として活動を致しましたが、その際、1年目は日本協会の活動内容を把握することに終始しました。実質的に活動できたのが2年目以降と短期間であったため、その活動は自分自身満足できる結果とはなりません。実は、次の2011（平成23）年にも立候補をいたしました。落選しました。その際に、応援してくださった全国のいろいろな方からお言葉をいただいたことがこのたびの立候補のきっかけとなりました。

日本協会を離れたこの2年間、京都府介護支援専門員会の事務局としての立場から、日本協会の活動を見させていただきました。この2年間は、私にとって、非常に有意義な時間だったと思います。現在は、日本協会にて、総務を担当し、協会全体を俯瞰しています。現場主義の鷺見新会長の下、次期改定に向けて積極的な活動が始まっています。

松本：「介護支援専門員（ケアマネジャー）の資質の向上と今後のあり方に関する検討会」に代表されるように、中央ではケアマネジャーへの評価はかなり厳しいように感じています。

吉良：一部には、ご指摘のようなケアマネジャーも存在するかもしれません。しかし、どの職種にも格差があるようにケアマネジャーにも「質の格差」があり、非常に優秀なケアマネジャーもいます。

しかし、指摘を受けた以上は、真摯に受け止め、ケアマネジャーの格差が小さくなるようにしたいと思っております。そのためには、解決しなければならぬ課題が山積しています。

松本：今回の役員改選では、会長の交代だけでなく、役員の交代も含め人事体制が大きく刷新されたと思いますが、この変化は日本協会の運営にどのような影響をあたえると予想しますか？

吉良：会長の交代は、大きな変化につながると思いますが、これまでの実績があったからこそその変化だと思っています。これまで積み上げてきたものを守り、改革が必要な部分は変革し、その上に新しいものを築き上げたいと思っています。

松本：今後、京都府介護支援専門員会としてどのような行動を起こすべきと期待されますか？

吉良：会員数に応じて決まる日本協会の代議員ですが、京都の代議員定数は、3人から2人に減っています。つまり、京都における日本協会の会員が減ったという事です。京都の意見を中央へ届けるためには、数が必要なのです。

松本：最後に京都府介護支援専門員会会員のみなさまに何か一言メッセージをお願いします。

吉良：ケアマネジャーの課題は、実務についているケアマネジャーの意見を集約できないことにあります。ケアマネジャー自身は、今後どのような方向に進めば良いと思っているのか？それをお聞かせいただきたい。次期改定に向けて、アンケート等が各方面から紙媒体やWebにて届きます。日本協会の執行部は、頂いたケアマネジャーの意見を集約し、代弁していきたいと思っています。是非、国民のみなさまに認めていただける専門職となるよう力を合わせましょう。

松本：ありがとうございました。

（常任理事 松本善則）

訪問リハビリ・看護ステーションとの連携について ～訪問看護、訪問リハビリの力を活かしていますか？～

【詰問】 あなたはリハ職と利用者宅に同行してケアプランを立てたことはありますか？ ケアマネがケアプランをたてる上で、リハ職との連携は必要だと考えますか。（あなた自身の考えをお書きください）

※H25. 9. 4 第3回社会保障審議会介護給付費分科会介護報酬改定検証・研究委員会、リハビリテーション専門職と介護職との連携に関する調査研究アンケートより

私たち介護支援専門員は、果たして医療関係職種との連携をしつつ、リハビリテーションの活用ができているのでしょうか？今回、京都市中京区にある訪問看護ステーション【京さくら】さんの取締役 逢坂大輔（理学療法士）さん、管理者の安田裕貴（看護師）さんにお話をお聴きしました。

Q：市内に2カ所（中京区・北区）事業所をお持ちで、看護師8名、セラピスト（PT・OT）8名のスタッフを有する事業所とお聴きしていますが、同じ屋根の下で、異なる職種がおられる利点はどのようなところでしょうか？事業所の特徴も含めて教えてください。

A：（看護師）リハビリスタッフがいることで、移乗方法の指導や福祉用具・住宅改修等の相談に対応しやすいことが大きいと思います。機能向上については、運動プログラムなどをリハビリスタッフと相談して、看護師が実施したり利用者様・家族様に指導や助言を行ったりもできますのでとても助かっています。（サービス）導入時は、リハビリだけで…という相談でしたが、行ってみたら看護師にも関わってもらう方が有効な事例もよくあります。リハビリだけでは在宅生活は支えられないし、看護と協力することが重要と考えています。事業所の特徴として、要介護者（介護給付）の方だけでなく、いわゆる軽度者（予防給付）の方へも予防的な視点でサービス提供を行っています。

Q：重度者や医療の必要性が高い利用者が増える中で、軽度者の方も受け入れられている理由は何ですか？

A：発症から治療（入院）、そして退院時の早期から（切れ目ない）看護・リハビリテーションが関わることで、より改善が見込めますし、悪化が防げます。例えば、

圧迫骨折により入院…要介護2であった方が、在宅復帰時に関わることで予防給付に改善され、訪問看護（リハビリテーション）から卒業できる方もおられます。そういう意味でも、早い段階（介護給付に限定せず）から、訪問看護・リハの導入がもっとされるべきだと感じています。

Q：訪問リハビリテーションのニーズについて、地域ではまだまだ不足しているサービスだと感じています。依頼を受ける側として、ケアマネジャーの認識力みたいなのところはいかですか？

A：4、5年前に比べると、訪問リハビリテーションの認知度は向上しているでしょう。訪問リハビリテーションを適切に導入するためには、量的拡大という側面だけでなく、むしろケアマネジャーの関わり方が重要です。適切な時期に利用者様へのリハビリテーションの必要性を説明し導入することは、ケアマネジャーの方々が、高齢者リハビリテーションへの理解、導入時期の見極め力、我々サービス事業所との連携体制（ネットワーク力）を持ってもらえるかどうかで大きく左右されると思います。そういう意味で、我々自身がもっと、その良さをアピールしていかないといけないなと日頃感じています。

（取材担当） アピールですか…そのことをケアマネジャーに置き換えると、まず我々が訪問看護・リハの良さを理解していないと…更新研修等のプログラムに、【地域の訪問看護・リハとの同行!! 研修時間2時間】なんかがルール化されるとお互いの仕事が理解できていかもしれませんね。介護支援専門員（ケアマネジャー）の資質向上と今後のあり方に関する検討会においても「介護支援専門員にリハビリテーションに係る基礎的な知識が教育される機会を増やさないといけない

…」と指摘されています。

Q：最後に訪問看護・リハビリテーションについては（現状は）限られた社会資源であると理解していますが、ゴール（終了時期）については、どのようにお考えですか？

A：導入の相談時、「ずっと関わってあげて下さい・・・」と依頼を受けることもあります(笑)。これについては、特に評価もせずに、エンドレスで関わり続けることは好ましくないと思います。しかし現実、高齢者は【維持すること】も大切な目標です。お歳を重ねても可能な限り元気で暮らせるようにと思っています。元気を続けてもらい、来年も京都の美しい桜を見て欲しい(事業所の名称の由来)・・・そのために家族(介護者)の指導や助言といった支援的側面と利用者を取り巻く包括的なリハビリテーションマネジメントをケアマネジャーさんと築くことが大切だと感じています。

(編集委員 松本恵生)



スタッフのみなさま

【インタビュー協力事業所】

株式会社ケアフォート 訪問看護ステーション京さくら

〒604-8241 京都市中京区釜座通三条上ル釜座町21-2

TEL. 075-254-3010

(京さくら訪問看護ステーション北大路事業所)

TEL. 075-366-6075

事務局からのお知らせ

主任介護支援専門員フォローアップ研修 ～対人援助のスーパービジョン～

開催日時：平成25年12月18日(水) 10時～16時

開催会場：ハートピア京都 3階大会議室(京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」5番出口直結)

定員：90名(※定員になり次第締切)

参加費：会員 3,150円 非会員 6,300円

講師：植田 寿之氏

※詳細は、当会ホームページをご覧ください。URL：http://kyotocm.jp/pdf/20131218_kenshu.pdf

第2回 京都府介護支援専門員研究大会 ～ケアマネジメントがもつチカラ～ 一関わりへの拒否をひもとく～

開催日時：平成25年11月30日(土) 10時30分～16時30分(受付10時～)

開催会場：メルパルク京都 JR京都駅(烏丸中央口)から東へ約1分

プログラム：基調講演『～次期介護保険改正の動向について(仮称)～』

厚生労働省老健局振興課 介護支援専門官 宮永 敬市氏 ほか

参加費：(研究大会) 会員 3,150円 非会員 6,300円 (懇親会) 5,250円

定員：100名(定員になり次第締切)

※詳細は、当会ホームページをご覧ください。URL：http://kyotocm.jp/pdf/20131130_kenkyutaiikai.pdf

第7回 日本介護支援専門員協会全国大会 in 山梨

開催日時：平成25年12月14日(土)・15日(日)

開催会場：平成25年12月14日(土) ハイランドリゾート ホテル&スパ

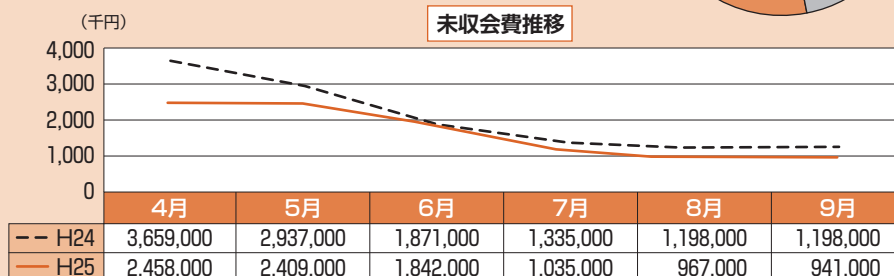
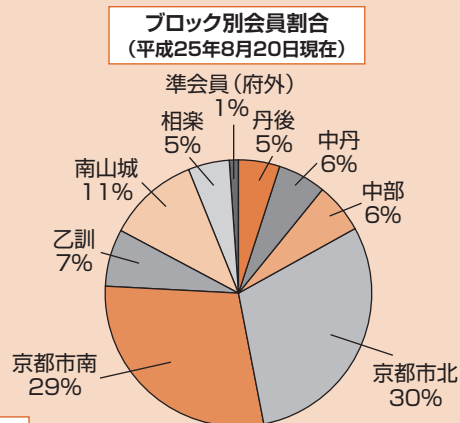
15日(日) 富士五湖文化ホール(ふじさんホール)・富士吉田市民会館

※詳細は大会ホームページをご覧ください。URL：<http://www11.ocn.ne.jp/~ycma/zenkoku-top.html>

会費納入の御礼 ―コンビニ収納の利便性による会費納入率アップ―

今年度より導入いたしました会費のコンビニ収納をご利用くださる会員様が增え、納入率が向上されました。これも皆様のご協力の賜物と感謝しております。

ブロック名	会員数	(前年比)	未収会費	会員1人あたり
丹 後	85	98.8%	¥53,000	¥624
中 丹	115	99.1%	¥22,000	¥191
中 部	101	102.0%	¥49,000	¥485
京都市北	536	97.5%	¥305,000	¥569
京都市南	515	101.8%	¥287,000	¥557
乙 訓	119	93.0%	¥113,000	¥950
南山城	187	101.6%	¥67,000	¥358
相 楽	89	104.7%	¥53,000	¥596
準会員（府外）	11	78.6%	¥18,000	¥1,636
合 計	1758	99.4%	¥967,000	¥550



編集後記

今年も隣の県から、2羽のコウノトリがやって来て、仲むつまじい姿をみかけます。ふと考えてみると、隣の県からは、もう一つ爆音と共に約10分でドクターヘリもやって来ます。医療が崩壊、医師数が減少し、病院の機能が弱くなり、高度医療や専門的な治療が必要になっても、距離と時間の壁があり医療の過疎地域で大変だった丹後圏域ですが、現在はドクターヘリや医療再生計画により、少しずつ元気を取り戻しています。

さて、丹後地域の高齢化率と言え、36%を超え、10年先の日本の状況を取替りしている地域となっておりますが、京都府や府立医科大学などの支援により、いろいろな事が変わってきています。

隣の県や地域支援病院から病状が安定すると連携パスを使い、緩和ケアや看取りをふくめ、地域に帰って来られる方も増えていきます。この、目まぐるしく変化していく現状の中で、さらなる他職種との連携が必要であり、私たち介護支援専門員の力量が試される時となりました。また、丹後地域では、認知症の人への「医療同意を支援するツールの開発」に向けた取り組みも始まっています。いろいろな技術、知識、情報を駆使し対応していけるように努力して行きたいですね。

今後の取り組みの中で、活用できる内容があればみなさんに紹介したいと思っています。 (丹後ブロック理事 城下直子)

京都ケアマネ・ポート43号

2013年10月1日発行

発行人：上原 春男

編集委員長 松本 善則

編集副委員長 藤井さよ子

編集委員 秋風 伯尚 田邊 伸良 上村 靖彦 西村 篤 松本 恵生

発行元 社団法人 京都府介護支援専門員会

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375 京都府立総合社会福祉会館7階

TEL. 075-254-3970 FAX. 075-254-3971

E-mail: info@kyotocm.jp URL: http://kyotocm.jp/